

# 令和5(2023)年度栃木県ニホンジカ管理計画モニタリング結果報告書(概要版)

## 1 総合評価

捕獲数は12,624頭であり、管理計画に掲げた年間の捕獲目標8,000頭を達成した。

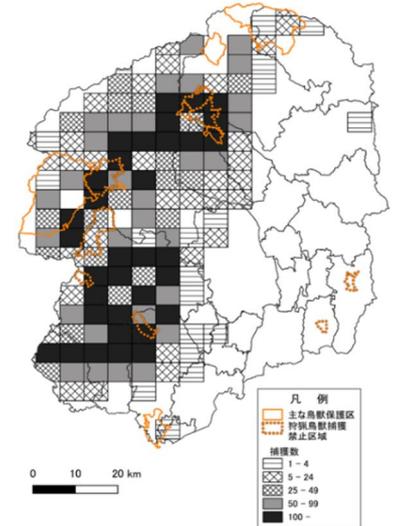
一方で、生息密度が日光鳥獣保護区内周辺を中心に高水準で推移していることや、農作物等の被害金額も増加していることから、関係機関等と連携して捕獲の強化や侵入防止柵の設置などを行っていく必要がある。

## 2 調査の結果

### (1) 捕獲数と捕獲の分布

- 捕獲数は、栃木県ニホンジカ管理計画(六期計画(H30～R5))に掲げた令和5年度の捕獲目標8,000頭に対して、12,624頭であり、過去3番目の数値である。近年、有害捕獲におけるくりわなの捕獲努力量が高い数値で推移していることが要因となっている。
- 高原山付近から日光鳥獣保護区内周辺にかけて及び県南西部に、捕獲数100頭以上の区画が分布している。
- 県北東部における捕獲エリアが拡大傾向。県北東部は、福島県、茨城県との県境域に位置しており、各県や関係機関とも連携した、広域的な視点による情報収集や捕獲などが必要である。

ニホンジカ捕獲分布(有害捕獲等)  
令和5年度捕獲数: 9,846頭

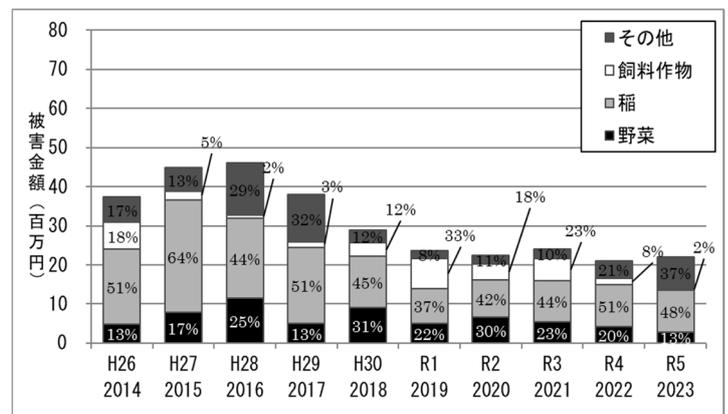


### (2) 生息密度

- 日光鳥獣保護区内周辺での生息密度は、一部減少傾向にある地点が存在するものの、依然として高い数値で推移している。この地域では、日光市や日光森林管理署による有害捕獲に加え、県による指定管理鳥獣捕獲等事業が行われており、関係者が連携してこれらを継続していくことが重要である。
- 日光鳥獣保護区周辺以外の高原山周辺でも生息密度が高い地域が存在することから、生息状況調査を継続し、早期に対策を講じることが必要である。

### (3) 被害の発生状況とその対策

- 農作物の被害金額は、2千2百万円であり、令和4年度から百万円増加したが、平成28年度をピークに減少傾向にある。国の事業を活用した侵入防止柵の設置を対策として進めてきたことが要因と考えられる。
- 民有林の被害金額は、1億2千6百万円であり、令和4年度から2千4百万円増加したものの、被害面積は35haで令和4年度から9ha減少した。獣害防止チューブや獣害防止ネットの設置を対策として進めてきたことが要因と考えられるため、引き続き、関係機関等と連携し、これらの対策を推進していく必要がある。



シカによる被害金額の推移(作物別)

